

教育研究業績書

2024年 5月 1日

氏名 藪 淳 一

研究分野	研究内容のキーワード	
1. 教育学	教育学 (幼児教育・保育)	
2. 社会学	社会学 (コミュニケーション)	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 1) 「社会人基礎」の学生教育指導	平成24年4月～ 現在	「社会人基礎力チェック」を初回の授業と最終回の授業で実施し、学生が自らの良さ・課題・成長に気づくとともに、社会人になるまでの間に何を学び何をなすべきか、意識化できるようにしている。また、グループワークを適宜取り入れ、学生が主体的に授業に参加できるように進めている。毎回、授業の終わりに質問シートに記入してもらい、次の授業で回答することで、個々の質問や意見にも対応できるように努めている。
2) 「職業論」の学生教育指導	平成25年9月～ 現在	比較的少人数の専攻科の授業のため、一人ひとりにできるだけ発言の機会を与え、自分の考えを広げ深められるようにしている。また、労働、給与、採用試験など具体的なテーマを取り上げることで、就業力と職業意識の向上につなげている。学外授業として附属幼稚園以外の幼稚園を見学する機会をつくり、幼児教育・保育への視野を広げるとともに、子どもに関わる仕事に就くことへの期待感をもてるようにしている。
3) 「日本語コミュニケーション演習 (口語表現)」の学生教育指導	平成28年4月～ 現在	発声・発音・滑舌の反復練習や実践的な演習を通じて、人前で話す経験を重ね、自信をもてるようにしている。また保育の現場につながるように、職員会議や園内研修を想定した話し合い、保育を保護者に伝える方法、素話など実践的な内容も取り入れている。授業のまとめとして、自分の思いや考えを相手に効果的に伝える力を伸ばすために、受講者全員が参加するプレゼンテーションコンテストを実施している。
4) 「保育者論」の学生教育指導	2019年9月～ 現在	保育実践の動画を毎回見せ、幼児理解、保育者の援助、環境構成などを多様な視点でとらえる機会をつくるとともに、他の授業等で学ぶ理論を、保育の実践と結びつけて考えることができるようにしている。また、現場で活躍している優秀な保育者の実践例や生き方を紹介することで、保育者の役割を理解し、専門性を向上させる意識が高まるように努めている。
2 作成した教科書、教材		各講義において、テキストとして使用する独自の資料を作成し、提示している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		令和4年度に本学で担当した科目「保育者論」と「社会人基礎」の授業アンケートでは、「総合的にみて、この授業に満足していますか」の設問への回答平均は、5点満点でそれぞれ「4.53」、「4.60」と高い数値を得た。
4 実務の経験を有する者についての特記事項	平成21年 8月 平成22年 4月	大学から幼稚園に受け入れた実習生に対する指導 (以降毎年) 札幌高等裁判所新採用職員研修講師 (以降2019年まで毎年) テーマ: 「マナーと接遇」 札幌高等裁判所の新採用職員を対象に、社会人として必要なマナーやコミュニケーションなどについて、ワークを交えながら研修を進めた。

事 項	年月日	概 要
	平成25年11月	苫小牧社会福祉協議会精神保健大会講演講師 演題：「幸せを呼ぶコミュにケーション」 内容：苫小牧市民を中心に精神保健についての関心が高い参加者に向けて、心の安定を導く良好なコミュニケーションについて解説した。
	平成26年11月	北見市私立幼稚園連合会教員研修会講師 テーマ：「保育の質を高める園内研修」 内容：保育の質を高めるためには、伝達型の研修ではなく参加型の研修が重要なことを、実際のワークを交えながら説明した。
	平成28年 1月	秋田大学教育実践セミナー講師 テーマ：「相手に響く話し方・伝え方のコツ」 内容：秋田大学の教員や大学院生などを対象に、相手に伝わるコミュニケーションについて、実践を交えて解説した。
	平成28年 7月	北海道私立幼稚園協会主催の免許状更新講習講師 (平成29年10月、平成30年9月、2019年8月にも担当) 幼稚園教諭免許状の更新対象者に、「保育の実践力を高める」というテーマで講義を行った。
	平成29年 6月	利尻富士町PTA連合会講演会講師 テーマ：「コミュニケーションが導く幸せ」 内容：保護者を対象に、子どもの成長のためになる子どもとのコミュニケーション、教員とのコミュニケーションについて解説した。
	平成29年 9月	帯広市教育委員会教育講演会講師 演題：「ワンランク上のコミュニケーション」 内容：帯広市内の小中学校教師を対象に、人間関係を円滑にするためのコミュニケーションの理論を解説し、実践を行った。
	平成29年 11月	北海道私立幼稚園協会道北支部研修会講師 テーマ：「教育要領の改訂と処遇改善加算」 内容：平成30年4月に施行される幼稚園教育要領について、改訂の背景、改訂の趣旨、何が変わるのかについて実践と結びつけながら解説した。また、新しい制度である保育者の処遇改善加算について、具体例を挙げて説明した。
	平成29年 12月	札幌市私立幼稚園連合会豊平・清田合同園長研修会講師 テーマ：「保育者を目指すいまどきの学生たち」 内容：若い保育者をどのように育てていくかについて、学生の気質にも触れながら、実習と採用の両面で話題提供した。
	平成29年 12月	北海道教育委員会の道徳教育特別非常勤講師 小清水町の小清水中学校の生徒を対象に、「コミュニケーションがつくるみんなの居場所」というテーマで、人間関係をよくするコミュニケーションスキルについて、授業を行った。
	平成30年 1月	北海道私立幼稚園協会石狩支部研修会講師 テーマ：「教育要領の改訂」 内容：平成30年4月に施行される幼稚園教育要領について、改訂の背景、改訂の趣旨、何が変わるのかについて実践と結びつけながら解説した。
	平成30年 9月	札幌市私立幼稚園連合会南区研修会講師 テーマ：「保育者のコミュニケーション」 内容：保育者に必要なコミュニケーションスキルについて、子ども、保護者、同僚という3つの場面を想定してワークを交えて説明した。
	平成30年 11月	北海道教育委員会の道徳教育特別非常勤講師 遠軽町の生田原中学校の生徒を対象に、「コミュニケーションと自分らしさが開く未来のとびら」というテーマで、コミュニケーションと個性を大切に生きることについて、授業を行った。
	2019年 7月	旭川私立幼稚園協会ファシリテーター研修会講師 テーマ：「ファシリテーション」 内容：園内研修を活性化させるためのファシリテーションのスキルについて、ワークを交えて説明した。

事 項	年月日	概 要
	2019年 12月	北海道教育委員会の道徳教育特別非常勤講師 石狩市の花川小学校の1年生と2年生に、「個性と共感」というテーマで、自分らしく生きること、共感の大切さについて授業を行った。
	2020年 7月	札幌市幼稚園初任段階における研修全体講義講師 テーマ：「新採用にあたって」 内容：働くとはどういうことか、保育者の専門性とは何かについて、解説した。
	2020年 11月	北海道教育委員会の道徳教育特別非常勤講師 名寄市の名寄西小学校の6年生に、「コミュニケーションが開く未来のとびら」というテーマで、コミュニケーションのスキルについてオンライン授業を行った。
	2022年 1月	札幌市私立幼稚園連合会北区研修会講師 テーマ：「職場における同僚性」 内容：同僚性を高めるために必要なことを、コミュニケーション、リーダー論、園内研修の視点から、オンラインで解説した。
	2022年 7月	宮城県私立幼稚園連合会主任リーダー研修会講師 テーマ：「組織マネジメントの理解～学校評価とECEQ～」 内容：幼稚園が取り組むべき学校評価について解説するとともに、同僚性豊かな組織をつくり保育の質を高めていくための方法について、オンラインで説明した。
	2022年 8月	石狩管内教育講演会講師 演題：「子どもたちの今と未来の幸せを願って」 内容：石狩管内の小中学校教師などを対象に、子どもたちが幸せな人生を送るために必要なことを、幼児教育、キャリアデザインの視点などから話した。
	2022年 12月	北海道教育委員会の道徳教育特別非常勤講師 江別市の江別第一中学校の生徒を対象に、「人生の主人公は自分自身」というテーマで、キャリアについて考えること、主体的に生きることの大切さを伝える授業を行った。
	2023年 1月	女性活躍推進セミナーファシリテーター 北海道環境生活部道民生活課女性支援室主催のセミナーにおいて、女性が社会で活躍するための気運醸成・意識改革について、村木厚子氏、木幡行宏氏、岩田幸治氏をパネリストに進行を務めた。
	2023年 1月	北海道教育委員会の道徳教育特別非常勤講師 標茶町の虹別小学校の低学年の児童を対象に、「ことばのチカラ」というテーマで、言葉の働き、コミュニケーションについてオンライン授業を行った。また、高学年の児童を対象に、「人生のストーリーは自分でつくろう」というテーマで、キャリアについて考えること、主体的に生きることの大切さを伝えるオンライン授業を行った。
	2023年 8月	北海道私立幼稚園協会教育研究大会分科会講師 テーマ：「保育の質向上を目指すチームづくり」 内容：ECEQ（公開保育を活用した幼児教育の質向上システム）のプロセスを使い、園の保育の質向上につながる園内研修のあり方を、ワークを交えて解説した。
	2023年 9月	北海道教育委員会の道徳教育特別非常勤講師 浦河町の浦河第二中学校の生徒を対象に、「人生の主人公は自分自身」というテーマで、キャリアデザインの必要性、主体的に生きることについて、授業を行った。
	2023年 10月	北海道私立幼稚園教育研究大会道南ブロック大会助言者 内容：函館市の函館短期大学付属幼稚園の公開保育に助言者として参加し、協議会において保育に対する意見を述べた。
	2023年 10月	北海道私立幼稚園教育研究大会道北ブロック大会助言者 内容：名寄市の光名幼稚園の公開保育に助言者として参加し、協議会において保育に対する意見を述べた。
5 その他		特記事項なし

職務上の実績に関する事項				
事項		年月日	概要	
1 資格, 免許		平成24年 9月 平成30年 9月 2021年12月17日	幼稚園教諭一種免許 保育士資格 公認心理師	
2 特許等			特記事項なし	
3 実務の経験を有する者についての特記事項		平成26年 5月 平成26年 5月 平成30年 5月 2020年5月	北海道私立幼稚園協会教育研究委員長 (平成30年5月まで) 札幌市私立幼稚園連合会副会長 (2020年5月まで) 北海道私立幼稚園協会経営研究委員長 (2020年5月まで) 札幌市私立幼稚園連合会会長 (現在に至る)	
4 その他			特記事項なし	
研究業績等に関する事項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. ひとりぼっちたち	単著	平成9年3月	近代文芸社 (170ページ)	小説 「ひとりぼっちたち」「はつ雪」の2編からなる単行本。
2. 虹のかかる街	単著	平成21年2月	文芸社 (246ページ)	小説 「最後の客」「れもんパイ」「夏子」「9回裏2アウト」「ラベンダー色の風」「虹のかかる街」の6編からなる連作。小説すばる新人賞最終候補作品。
3. 新しい時代の保育者論	共著	2024年5月	教育情報出版	〈担当箇所〉 pp. 7~16 Chapter5「カリキュラム・マネジメント」の5-2「カリキュラム・マネジメントに基づく保育実践」・5-3「保育者の学び合いとカリキュラム・マネジメントのつながり」、コラム⑤「カリキュラム・マネジメントの難しさと面白さ」 カリキュラム・マネジメントを充実させて保育実践の質を高めていくためには、目に見えにくいと言われる保育・教育内容や乳幼児期の子どもの育ちを可視化し、共有していくことが必要。「めざす子ども像」を明確にしながらも、子どもの姿に応じて当初の計画を柔軟に変えていこうとする姿勢が、保育をよりよくしていく。また、園の保育をもっとよくしたいという目的を職員全員で共有し、一丸となって歩み続けることができる園の文化を醸成していくことが、カリキュラム・マネジメントを支える大きな力となる。 編著者：須藤麻紀 共著者：春原淑雄、宍戸良子、花原真理子、岩崎桂子、福鹿慶子、小島好美、川村高広、今村麻子、臼井彩子、坂田哲人、篠崎朋子、朝比奈太郎、渡辺直人、藤川志つ子、齋藤真弓、前田和代、山本房子、名倉桃子、藤田久美子、飯田俊明、若狭谷亮、川崎一樹、金元あゆみ、北原麻以、村田健治、黒田恵理子

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(学術論文)</p> <p>1. 平成28年度文部科学省委託「私立幼稚園教員等のリフレクティブ・マネジメントを支え高める学校評価実施支援システムに関する研究」</p>	共著	平成29年3月	<p>公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 (48ページ)</p>	<p>〈担当箇所〉 pp. 7～16 内省と対話によって自己評価の質を高めるリフレクティブ・マネジメントを支える仕組みとして、「公開保育」というシステムの実効性を研究したものである。公開保育のプロセスを通して、子供の姿を基に実践について話し合う風土が醸成されていくことが望ましいが、これを支援する公開保育コーディネーターには、「教育・保育」だけでなく「ファシリテーション」についての理解という専門性も求められる。 共著者：田中雅道、安家周一、宮下友美恵、加藤篤彦、川原恒太郎、小野寺靖子、高倉幸世、濱名浩、水原紫乃、岡本和貴、岡本潤子、秦賢志</p>
<p>2. 平成29年度文部科学省委託「幼児教育の質向上を目指した学校評価の推進に関する研究」</p>	共著	平成30年3月	<p>公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 (69ページ)</p>	<p>〈担当箇所〉 pp. 21～25 学校評価を推進し、各園の教育の質を向上させるためには、園長・主任等のリーダーシップだけでなく、保育者が自らの課題を発見し、同僚との対話を重ねて改善への取組を進めることが有効である。つまり、多様な意見に出会い多様な見方があることを知ることで、新たな気づきが生まれ、次の手立てにつながっていくことが望ましい。教育の質をさらに向上させたいという共通の目標をもって対話と内省を重ねていく同僚性を、園の学びの文化として育むことが大切である。 共著者：田中雅道、安家周一、宮下友美恵、加藤篤彦、川原恒太郎、小野寺靖子、高倉幸世、濱名浩、水原紫乃、岡本和貴、岡本潤子、秦賢志、関政子</p>
<p>3. 令和元年度文部科学省委託「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」『私立幼稚園のための学校評価ガイドブック』</p>	共著	2020年3月	<p>公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 (60ページ)</p>	<p>〈担当箇所〉 pp. 6～15 幼児教育・保育の無償化が始まり、私立幼稚園も今まで以上に「公の教育を担う学校」としての責務が大きくなった。専門性をもつ教員が、自らの教育を真摯に振り返り、改善策を見出し、アクションを起こしていくという主体的な評価の営みがあったこそ、質の高い幼児教育が生み出されていく。一連の学校評価に継続的に取り組むことで、質向上を図り続ける園の風土が醸成されることが期待でき、また社会への説明責任を果たすことにもなる。 共著者：宮下友美恵、加藤篤彦、岡本和貴、川原恒太郎、岡本潤子、高倉幸世</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) 1. 人が伝えるから伝わる	単著	平成30年3月	カムラード(公益社団法人北海道私立幼稚園協会) (35ページ)	コミュニケーションにおいて、非言語コミュニケーションの果たす役割は大きい。発する言葉が重要なのは間違いないが、言葉以外のメッセージも伝わるという事実を理論的に知っておくことは、「伝える力」を磨く上で、大きな力となる。言語を操る力も、非言語的能力も、人だけがもつ宝物である。子どもの育ちも、保育の意図も、保育者や保護者の思いも、人が伝え合うからこそ伝わり合うのだと言える。 (pp. 12~13)
2. 年頭あいさつ	単著	2023年1月	北海道通信	バスの置き去り事故や子どもの虐待に関する事件が相変わらず起きてしまっているが、待機児童がほぼ解消され、少子化がさらに進むことが予想される中、今後の幼児教育・保育は、保育の供給量確保という視点から転換して、人材不足や配置基準の見直しなども含め、質の観点から様々な課題を解決していくことが求められる局面に入っている。